

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和元年度技術情報について

令和元年度技術情報第2号を發表したので送付します。

令和元年度技術情報第2号

令和元年8月29日
徳島県

8月第6半旬の普通期水稻巡回調査において、トビイロウンカ短翅型雌成虫の生息を確認しました。9月以降に収穫する圃場では坪枯れの発生が懸念されます。
現地においては、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：普通期水稻(9月中旬以降に収穫するヒノヒカリ等)及び酒米(山田錦等)
病害虫名：トビイロウンカ

- 1 発生地域 県内全域(9月中旬以降に収穫する圃場)
- 2 発生時期 9月～
- 3 発生状況

(1) 普通期水稻現地巡回調査結果

8月26～27日に実施した普通期水稻現地19圃場における25株払い落とし調査では、発生圃場率が26.3%と、平年(9.7%)に比べて高いが、株当たり寄生虫数は0.03頭と、平年(0.07頭)並の発生である。なお、増殖率の高い短翅型雌成虫は、3圃場で確認され、株当たり寄生虫数は0.04～0.08頭であった。

地域別の発生状況は、北中部9圃場(板野郡2圃場、阿波市3圃場、名西郡2圃場、吉野川市2圃場)では、発生圃場率が22.2%、株当たり寄生虫数が0.03頭であった(平年：8.0%、0.01頭)。また、短翅型雌成虫は吉野川市鴨島町及び山川町の2圃場で確認され、それぞれ株当たり寄生虫数は0.08頭であった。

西部10圃場(美馬市4圃場、三好市3圃場、東みよし町3圃場)では、発生圃場率が30.0%、株当たり寄生虫数が0.03頭であった(平年：12.7%、0.2頭)。また、短翅型雌成虫は東みよし町の1圃場で確認され、株当たり寄生虫数は0.04頭であった。

(2) 徳島地方气象台が8月22日に発表した1か月予報では、8月31日以降は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並か高いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

4. 防除法等

- (1) 圃場における発生状況を早期に確認し、1株当たりの成幼虫数が1頭以上の場合は薬剤防除を行う(表1)。
- (2) 本虫は株元に生息しているので、薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合であっても、降雨の合間に薬剤防除を行う。
- (4) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。



図1 株元に生息するトビイロウンカ



図2 トビイロウンカによる被害(坪枯れ)

表1 トビイロウンカに効果のある農薬(農薬登録内容：2019年8月27日現在)

農薬の名称	希釈倍数	使用時期	使用回数	系統	IRACコード
キラップフロアブル	1000~2000倍	収穫14日前まで	2回以内	フェニルピラゾール	2(B)
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	ピレスロイド	3(A)
MR.ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	ピレスロイド	3(A)
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	3000倍	収穫7日前まで	3回以内	ネオニコチノイド	4A
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキシミン	4C